

開講期	2025年度前期、2025年度後期			単位数	4.0単位
科目[授業]名	3804 教育文化論演習			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	クラス指定必修			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	金曜2限				
教室	C103教室				
代表教員	辻 直人				
担当教員	辻 直人				
テーマと到達目標	①研究論文、研究対象となる資料（史料）を丹念に読み、分析解釈することができる。 ②自らの研究テーマを定め、論文として探究内容をまとめることができる。 ③「教育とは何か」という本質的な問いに対して、自分なりに答えを見出すことができる。				
概要	本演習は教育学・教育史研究、特に日本の近現代の日本教育史、教育実践史、教育思想史等を研究し、教育の本質を問うことを課題としている。本演習でも、基本的な学問方法は歴史研究と思想研究である。しかし、ただ歴史的対象を研究するだけでなく、社会科を中心とした現代の実践記録の分析や学校文化研究なども射程に収める。 前期は基本的に文献講読を行い、後期は各自の研究論文指導とする。外部の研究会や現場教員との交流、フランス人学校など外国人学校の見学、小学校の実践記録など歴史史料の読解なども、受講生の関心を考慮しながら組み入れたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	演習の内容・趣旨説明、目指す目標、参加者の自己紹介と関心（研究テーマ）の確認				対面授業
第2回	演習担当教員の研究業績の紹介、今後の進め方について				対面授業
第3回	テキストの講読と討議（1）				対面授業
第4回	テキストの講読と討議（2）				対面授業
第5回	テキストの講読と討議（3）				対面授業
第6回	テキストの講読と討議（4）				対面授業
第7回	テキストの講読と討議（5）				対面授業
第8回	テキストの講読と討議（6）				対面授業
第9回	受講生の研究テーマ報告				対面授業
第10回	論文の書き方について				対面授業
第11回	参考文献の探し方、引用の仕方について				対面授業
第12回	史料の整理、分析方法について				対面授業
第13回	各受講生の研究経過報告（1）				対面授業
第14回	各受講生の研究経過報告（2）				対面授業
第15回	前期のまとめと、後期に向けての各自の課題の提出				対面授業
第16回	各受講生の研究の進捗状況報告				対面授業
第17回	各自の第一次研究論文中間報告（1）				対面授業
第18回	各自の第一次研究論文中間報告（2）				対面授業
第19回	各自の第一次研究論文中間報告（3）				対面授業
第20回	各自の第一次研究論文中間報告（4）				対面授業
第21回	研究論文の検討（1）				対面授業
第22回	研究論文の検討（2）				対面授業
第23回	各自の第二次研究論文中間報告（1）				対面授業
第24回	各自の第二次研究論文中間報告（2）				対面授業

第 2 5 回	各自の第二次研究論文中間報告（3）		対面授業
第 2 6 回	各自の第二次研究論文中間報告（4）		対面授業
第 2 7 回	論文作成と集団討議		対面授業
第 2 8 回	論文発表会（1）		対面授業
第 2 9 回	論文発表会（2）		対面授業
第 3 0 回	まとめと今後の課題討議		対面授業
成績評価の基準	①演習への参加状況（発言の積極性等） 20％ ②研究報告 40％ ③論文作成 40％		
履修にあたっての留意事項	根本的関心は、教育とは何か、という問いの探究であり、そう簡単には答えの出ないこの本質的な問いに対して真摯に向き合い、受講生各自が「納得」できる答えを研究から見出して欲しい。		
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細			
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件			

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	学外調査先への交通費		
教科書	ゼミ生と相談の上、決定する。	教科書(ISBN)	
参考文献	金森俊朗、辻直人『学び合う教室 金森学級と日本の世界教育遺産』KADOKAWA、2017年	参考文献(ISBN)	